

講義名	航空事業経営論			授業形態	
担当教員	瀧田 実	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

航空事業経営論では、観光を支える交通事業全体を俯瞰した上で、国際観光ビジネスの視点から航空事業経営を中心に学修する。グローバルビジネスを展開する航空会社はどのような企業活動を行っているのか。最新のトピックを幅広く取り上げ、航空業界を取り巻く環境を理解し、航空会社の様々な戦略や事業内容を学ぶ。航空会社の企業戦略を通して、世界情勢や現代社会を読み解く力を養う。

到達目標

交通産業の全体像や航空業界の基礎知識、最新の航空情勢を学び、これからの航空輸送事業を展望できるようになる。
航空会社の多様なビジネス戦略を学び、ビジネス社会における企業の戦略的思考やマーケティング発想を理解し、新たな取り組みへ提案ができるようになる。
航空会社の様々な業務内容を学び、航空業界への理解を深め交通・航空輸送業で就業することができるようになる。

提出課題

毎回の授業で感想、質問、意見を求める。
毎回の授業で課題小レポートの提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業で講ずる小レポートについては、次回授業の冒頭で出題意図と要点を解説して前回の学習内容を復習する。また、優れた小レポートを紹介するとともに、学生からの質問や意見についても解説を行い全体で共有する。

評価の基準

授業への参画姿勢（質問・感想・課題小レポート内容評価）：50%
期末試験：50%

履修にあたっての注意・助言他

観光産業への就業志望者、航空業界の研究に意欲を持つ学生の履修を期待する。
航空事業経営に関する知識、情報を積み重ねていく授業であり毎回出席すること。
感想・質問・意見などを積極的に発信して授業への参画姿勢を示すこと。
第1回目の授業において、講義の進め方、評価方法、小レポート等の授業概要を説明するので必ず出席すること。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

必要箇所をプリント資料として配布、パワーポイントを使用して授業を進行する。
参考文献は、適宜講義内に紹介する。

授業計画

- ガイダンス
- 観光交通事業全般
- 航空の基礎知識と歴史
- 航空の自由化（世界の航空業界）
- 航空の自由化（我が国の航空業界）
- 航空政策と空港事業
- 航空産業の事業特性
- LCCの台頭とビジネスモデル
- 航空の企業戦略（ネットワーク）
- 航空の企業戦略（アライアンス）
- 航空の企業戦略（レベニューマネジメント、FFP）
- 国際航空貨物事業
- 空港の業務（エアラインの仕事）
- 航空の安全と保安
- 航空会社の社会的責任（CSR）と環境対策

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

航空業界は、航空の自由化が推進され、世界最先端の技術開発とグローバルな競争の中にある。毎回の授業で配布したプリントを使って航空ビジネス用語を確実に理解できるようにし、授業でわからなかった箇所は質問事項などを整理して次の授業に持込むこと(授業2時間)。また、常に観光・交通・航空関連ニュースに関心を持って最新情報の収集に努め、多様化する顧客ニーズに各企業がどのような事業活動を展開しているのか、またその背景と狙いを考察すること(予習2時間)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標を達成することで共通DPに貢献できる。観光産業を支える交通運輸業全体を俯瞰した上で、国際観光ビジネスの視点から航空事業の基礎知識とグローバルビジネスを展開する航空会社の企業活動や最新の航空情勢を収集する。航空業界の仕事内容を学修し就業につなげ、高い能力を発揮する人材をつくる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回の授業に関する感想、質問、意見や課題小レポートの提出手法として Campus-Xs を使用。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
航空会社での勤務（本社部門、空港部門、貨物部門、海外駐在など）の経験を活かして、航空業界の様々なエピソードを交えながら航空事業経営の難しさと面白さを伝える。

備考